

# あかりだより

No.24

発行：2014年8月

発行者：社会福祉法人 あかりの家

題字：中山 繁雄



## あかり太鼓 ばんたん・ゆうあい文化祭に出演!!

あかりの家としては約15年ぶりに出演しました。大舞台はかなり緊張しましたが、バチに想いを込め、21名で思いきり叩きました。民謡集団 鯨のおふたりの先生にも太鼓と笛でご協力いただき、大成功でした。



# ノルマ 1日 1,500個 あかりの家 プラグ班

あかりの家では昨年6月から有限会社米田製作所から仕事をいただき、電気スイッチ部品の組立作業をしています。納期・生産量・品質。全てに責任を負ったやりがいのある仕事です。やりがいのある作業に取り組むことで、張り合いのある生活を送ることを目指しています。

とはいえ、簡単な仕事ではありません。当初は1日300個を完成させるのがやっとの状態でした。いろいろと工夫を重ね、現在では目標ではなく、ノルマ1日1,500個を掲げられるまでになり、相手先の方にも信用していただけるようになりました。



## ☆ こんな工夫をしました ☆

### 数を意識する

1列10個1箱100個で完成。完成が目目でわかる。箱いっぱいになったら次の箱。箱が全部完成したら、1,500個完成。



### 工程中に作業チェック

支援員が作業工程の中に入り作業をチェックすることで、不良品の数を減らし、生産性をアップしました。



## ☆ こんな作業をしています ☆

### 指先を使う細かな作業です



### 道具を使う面白い作業です



かしめる機械や電動ドライバーを使って組立てます。

## 11人の面々



器用さNo.1



機械使用No.1



若手No.1



楽しさNo.1



持続力No.1



信頼度No.1



繊細さNo.1



伸び率No.1



早さNo.1



働き者No.1



作業量No.1

# 手づくり納豆 製造・販売 ワークホーム高砂

ワークホーム高砂では、今までボランティア見守る会の皆さんに作っていただいていた手づくり納豆を引継いで、昨年7月より製造・販売しています。利用者の賃金アップを目標に、自主事業の確立を目指した、手づくり納豆事業です。

## 手づくり納豆

大豆を圧力釜で茹でる。パック詰め。発酵。ラベル貼り。全工程を利用者が手づくりしています。みんな、美味しい納豆を作ろうと頑張っています。



## 手づくり納豆“なっところちゃん”

北海道産十勝大豆を使った、香り豊かな大粒納豆です。

結構、固定のお客様が多いんですよ。



## 生産者直売商品

スーパーYAMADAの4店舗に生産者直売商品として置いていただいています。

スーパーYAMADA 阿弥陀店では、利用者が月1回出向き試食販売をしています。

ますます拡販を目指すとともに、それに伴い製造も拡充していこうと頑張っています。



## ★試食販売★

頑張った作った“なっところちゃん”を多くの人に食べてもらおうと渡していきます。

「食べてもらえたらうれしい」「買ってもらえたらすごくうれしいです」



スーパーYAMADA阿弥陀店にて



# 地域支援センター あいあむ 開設

今年4月、あかりの家では地域支援室を改変し、地域支援センター あいあむとして独立した組織にしました。入所施設で培った自閉症療育などの専門性を「地域に返していく」という方針のもと、ご本人、ご家族が地域で安心してくらしできるように「相談支援」「地域づくり・人材育成」の2本柱を中心に事業を展開し、東播磨における地域支援の拠点を目指します。

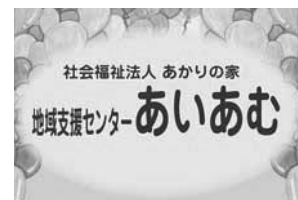


## 相談支援

- 加古川市、高砂市、播磨町、稲美町の福祉課等窓口などへ出向き相談を受けています。
- 児童、成人の方におけるサービス利用計画とモニタリングを作成します。
- 地域での生活を始める準備を支援します。
- 地域での生活を24時間体制で相談支援します。

## 地域づくり・人材育成

- 東播磨圏域内において自立支援協議会への参画や相談員からの相談など、相談支援体制への後方支援を行っています。
- 高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業に参画するとともに、啓発としてホームページの管理、事務局活動をしています。
- 相談支援専門員補助員としてあいあむが受入れ、実際に相談支援を行いながらそのノウハウを直接的に提供し、人材育成を行っています。



### “あいあむ”という名前に

一人ひとりが持っている“私は～(I am)”を大切にしたいという思いと、相談という出会いから生活を一緒に編んでいきたい(会い編む)という願いを込めました。

## 高砂市障がい者自立支援協議会

あいあむが事務局をしている  
高砂市障がい者自立支援協議会は  
ワンだふるな地域生活を目指して活動しています  
活動内容や地域生活情報などをホームページで紹介しています

ぼく 松の助(まつのすけ) ヨロシクね!!  
高砂市障がい者自立支援協議会のキャラクターだよ  
僕も活躍してるからホームページ見に来てね…

URL:<http://wan-takasago.com/>



# 元気です! グループホーム 希望山荘日笠

ケアホームからグループホームに名前が変わった希望山荘日笠。利用者は6名。78歳を筆頭に平均年齢55歳と、高齢になってきました。それでも、仕事に、余暇に、生活にまだまだ元気に暮らしています。

## 好きなものに囲まれて

Aさんは阪神タイガース、BさんはCDデッキ。好きなものに囲まれて、お部屋でくつろぎのひととき。



## 健脚ぞろい

休みの日には、日笠山の頂上までお散歩です。



## 食欲旺盛

今日は待望の焼肉。みんなのお箸もすすみます。お肉ばかり食べないで、野菜も食べてくださいね。



# 進化中! 児童デイサービス

児童デイサービス3年目、子どもたちを取巻く状況を観て、姿を変えながら頑張っています。

## 【家庭支援・家族支援】

ご家族の悩みを聴き、思いを形にするお手伝いをします。

### 児童発達支援 (小学校入学前の療育支援)

小学校に上がる前に、人と学ぶ・学習することをたくさん体験する。



### 放課後等デイサービス (小学校入学後の療育支援)

大人になったとき困らないように、周りに合わせることを(働く・学ぶ)を身につける。



## 児童デイサービス あかりの家



【幼・保・学校支援】  
先生方の相談にものります。

# サポーター養成講座について

## ひょうご発達障害者支援センター クローバー

### サポーター養成講座とは

兵庫県では、発達障害を雇用する職員や保育所、障害者支援施設の職員を対象に研修を実施し、発達障害児（者）の特性を理解し、周囲への理解を促進するとともに、特性に応じた直接的な支援を行う「発達障害サポーター」を養成しています。

兵庫県からあかりの家が委託され、H25年度より研修を実施しております。

### 講演と演習

サポーター養成講座には児童期と成人期の講座があります。

従来の研修は講義中心ですが、現場で役立つことをねらいに、演習を行いました。児童期では、子どもの姿をシートに記入し、子どもと自分のやりとりを記録して話し合いを行いました。成人期では、事例について何を聞き取り深めていくかを話し合い、講師からの助言で深めていきました。



### 現場を見学

児童期の参加者は、特別支援学校、県立こども発達支援センター、児童発達支援センター、クローバーのセンター・ランチを見学研修しました。

成人期の参加者は、就労を目指す方へのグループ活動等を行う医療機関、就労移行支援事業所、クローバーのセンター・ランチを見学研修しました。

### 参加者の声より（アンケート）

- ① 今まで気づけなかった事への気づき、保護者の方々の気持ち、共通理解の大切さなどを知り、発達障害と言われる子ども達がとても愛おしく感じます。（児童期：保育園保育士）
- ② 改めて「子どもの姿を理解する」ということを考え直す機会になりました。問題行動に対して原因が何かを考え直し、関わり方を変えたことで変化が見られた部分もありました。（児童期：児童施設指導員）
- ③ お子さんの見方をもっと深めたいと思いました。仕事の内容を整理し、お子さんと関わる時間をもっとたくさん取りたいと思いました。職員同士の連携もしっかり取れる業務の流れも考えていきたいです。（児童デイサービス職員）
- ④ 単に「発達障害とは」ということを学ぶのではなく、医療・就労・制度等様々な視点やいろいろな支援現場を研修を通して学ばせていただきました。グループワークもとても勉強になりました。（成人期：通所施設所長）
- ⑤ 「発達障害」という言葉がどういうものか、どのように相手の支援と取り組むのか、ぼんやりと思っていたことがきちんと学べた。相手の思い、一人ひとりの違いをよく理解して接していければと思う。（成人期：社会福祉協議会職員）
- ⑥ 発達障害と一言で言っても一人ひとり違い、その人に合った支援をすることが必要となる。対象者を正しく理解する為に知識を深めるとともに、病名や診断名で判断するのではなく相手をしっかり見ていきたい。（成人期：地域活動支援センター職員）



### その後

参加された方の保育園へ出向いたところ、「研修によって、子どものことをさらに深くみていけるようになりました。」と言われ、保育の中で丁寧に関わっておられる姿にうれしく思いました。

### 平成26年度予定

児童期は7月から5日間の日程で研修が始まりました。成人期は11月以降に実施の予定です。

クローバーでは発達障害理解促進事業として、今年2月初め、神戸新聞に5日間連続で広告掲載をしました。また、同じく2月終わりには茂木健一郎氏を講師として招き、800人を越える理解促進シンポジウムを開きました。

## あかりの家 自閉症療育のキーワード集(11)

「第20回あかりの家事例研究会」研究誌より

<実践の中で得たエッセンスをことば>にし始めて12年になる。以下、『第20回あかりの家事例研究会』(’14.1)研究誌の「あかりの家自閉症療育のキーワード集14年度版」からの抜粋である。

### 32 分かりやすさ・伝えやすさ

#### ①日課で伝える

「さんの帰省時間が10時から15時へと変更になった。「いつ帰るの?」と聞くと「15時」。しかし、どうも違うと感じた。「じゃあ、朝ご飯を食べたら、その後は?」と聞き直すと、「帰ります」。やっぱり伝わっていない。

そこで、日課で説明をし直した。「朝ご飯食べて、作業して、昼ご飯食べて、作業して、帰る」復唱もできた。「じゃあ、朝ご飯食べた?その後は?」「作業します」。伝わった。

#### ②服装を変える

相談で関わっているS君。特別支援学校から作業所の実習の面接に制服で行く。学校へ行くくと勘違いして作業所の玄関でパニック。実習当日も、学校の体操服で行ってパニック。

お母さんに、「可能であるなら、カバンも服も、全部違う物で実習に行ってください」と願います。その後はパニックなく実習を終えた。

「勘違いした」のではなく、「勘違いさせた」と解釈する。

#### ③「まだ分からない」は分からない!

Nさんに、カレンダーを使って予定を伝える。

「外出は、いつにしようかなあ」「25日!」「いや、勤務表が出来ていないから、10日まで待って!」ずっと不機嫌。

そこで、「外出は、27日にします」「分かりました」。機嫌良。

本当は27日必ず実現できるかどうか分からない。しかし、未定のまま過ごすより、一旦決めておいて後で変更した方が、Nさんの場合うまくいくと判断した。

#### ④終わりの時間を伝える

ショート利用のA君。母親に急用事が出来て、彼を置いて外出しなければならなくなった。

母親が懸命に、何度も説明した。本人も「ウン、ウン」うなずく。しかし、パニック。そこで、母親に、終りを伝えることをアドバイスした。「外出するけど、19時に戻ってきます。」と、終わりの時間を伝えたら、全くパニックなし。キチンと留守番できた。

#### ⑤具体的に、視覚的に

新人のFさん、ショートC君と何も無い広間で運動を始めようとしている。「まず最初に座って挨拶をします。」「座ってね」「座って!」と促しても座らない。

そこに、先輩職員の手がHさんが登場。ポンと座布団を1枚置いて、「ここに、座ろう」。すぐに座る。

#### ⑥「ちがうちがウ」「そうソウ」

Yさんは、途切れ途切れ、力を入れてオシッコを出す。「力を抜いて〜」と伝えるが、伝わらない。お尻を手で触ると、途切れ途切りに、お尻がキュッと動く。

そこで、動いたら「ちがうちがウ」、止まったら「そうソウ」と教えた。そうして動かさないことに気付いてくれた。その後数回の練習で、身についた。

それからは、キレイな放物線でオシッコが出る。

#### ⑦見通しを立てる

Wさんは、毎朝起きた時、夜勤明けの職員に「ヤー、ヤー」と作業着を着るのが、普段着を着るのか確認していた。これでは、見通しの無いままの生活を強いることになる。それは苦しい。無用の混乱を引き起こすし、自立も妨げられる。

そこで、次の日の見通しを立てるために、次の日が作業なら作業着を、帰省日には象徴的にカバンと普段着を、寝る前に用意することにした。

そうしてから、起床後、夜勤明けの職員に確認せずに自分で着替えられるようになり、勘違いの“無駄パニック”はなくなった。

(14.守)

### 123 どーんと構えて、微細な動きをしっかりと感知して、主導権を握る

Kさんのお母さんが亡くなった。母親との別れをお願いし、園長を含め3人で家族葬に参列した。

長時間座り続ける中で、頻回なトイレ要求や失禁、ツバつけ、強い足の踏みならしも想定されたので、必要に応じて式場から離れる心積もりをして参列することにした。

2日前、服の購入時、“お母さんが死んだ”ことを伝えた。当日着替えの時、「死んだ」・「バイバイ」・「居ない」など、本人が理解できそうな言葉を探し、伝えていった。

普段の外出であれば嬉しそうに着替える。しかし、当日は神妙な面持ちのまま、40分ほど車に乗り、告別式へ向かった。何よりも、こちらペースを作ることに集中した。

会場到着してすぐ、本人のトイレ要求前に、トイレへ誘った。刺激を最小限にするため、開始までの15分間、周りが空席の一番後方に着席して待った。

その間、目線、指先、足先に注目した。耳元でささやくようにシンプルなお声かけをして、余計な動きが出ないように集中した。非常に落ち着いていたため、開式直前、前方へ移動、園長と私の間に座る。

読経が始まり、高音の打楽器が鳴ると指先が動き始め、小さな声が漏れ出す。うつ向き気味の姿勢を維持し、耳元で声をかけながら、微細な動きが分かるよう私の身体の一部を本人の身体に当てた。

30分ほどして突然オナラが出て落ち着きがなくなる。すぐ私の身体を軽く寄せ、本人への意識を強めた。読経が終わると同時に自ら立ち上がり、予想通りトイレを要求してきた。トイレから会場に戻る際は一歩一歩ゆっくり歩いた。

一緒に手添えで焼香し、棺に花を一緒に入れ、最後に棺を一緒に持たせてもらった。いつもと違う神妙な面持ちで、予想以上に落ち着いて振舞った1時間の参列であった。

彼の動きを予測し、多動的な動きをしなくて済む応援が成功した。彼を知っている親族なら想像もできないくらい落ち着いた姿を親族へ見せることが出来た。だから私自身気持ちよく葬儀場を後にした。(14.前)

### 211 「またよくなってから会おうね」 —地域から施設へ 施設から地域へ—

相談を受けていたFさん。パニックになると、物を投げたり、お母さんを叩く。過食で体重は増加の一途。閉じこもりで、部屋から8日間出ない事もあった。

一方、母親は、パニックになったらどうしよう、物音で目が覚めたらどうしようと眠れない日々が続く、体調を崩した。

そんな時D施設に空がでた。藁をもつかむ思いで入所を決断。

「お互い、またよくなってから会おうね。」と、母親は約束をし、3年の有期限で入所を開始。

3年間の“しなくて済む”施設生活は、まさにFさんがつけていた鎧を1枚ずつ外す作業になっていった。

その頃母親は「あの子を見捨ててしまった。」といった罪悪感から、手が痛み、食事がのどを通らなくなった。それでも、母親は“あの言葉”を何度も自分に言い聞かせ、3年間を乗り越えようとした。そして退所3か月前。母親は、「お互いよくなったからまた一緒に暮らそうね。」と本人に伝えた。約束を果たした母親もまた、不安という鎧を1枚とった。

退所から2年、今でもパニックはあるが、通所先を休むことはない。時には鼻歌も出るらしい。とは言え、在宅生活は決して平坦なものではない。母親は「まだ不安はあります。でもみんなが支えてくれていますから負けません。」と笑顔で答えられるようになった。今では、Fさんの通所の合間を縫って、パートの仕事に出かけている。

(14.濱)

# あかりの家イロイロ情報局

## 短期入所事業・日中一時支援事業

行動上の問題や、家庭のご都合などで、一時的に施設をご利用いただけます。昨年度は、自閉症の方を中心に延べ3,027日の利用がありました。

## 児童デイサービス事業

自閉症や発達に遅れのあるお子さんの将来を見すえて、大人になったときに自分らしく社会の中で生きていくことができるよう、個別療育や集団療育をととして「発達の芽」を育てる事業です。

## 障害児等療育支援事業

在宅障害児(者)及び家族を対象とした相談・療育を行う事業です。当事業では専属のスタッフをご相談をお受けします。ご相談をお受けした後に療育担当職員が以下のような支援をいたします。

- I: お宅にお伺いしてご相談をお受けします。  
 II: あかりの家に来ていただいて、ご相談をお受けします。  
 III: 通所施設、学校、保健所などにお伺いしてご相談をお受けします。(施設支援一般指導事業)

(在宅支援訪問療育等指導事業)  
 (在宅支援外来療育指導事業)

## 療育相談

お気軽にお電話ください!!

TEL 079-254-3292

FAX 079-254-3403

亀山まで

## 親子体操教室

お母さんが、子どもの身体に働きかけながら、バランスある受容と主導の力をつけ、親と子のくよい関係を作るための応援もしております。

## ワークホーム高砂 手づくり納豆

ワークホーム高砂が製造・販売している手づくり納豆は、スーパーYAMADAの4店舗で生産者直売商品として販売しています。スーパーYAMADA阿弥陀店に、月に1度、利用者が向向き、試食販売をしています。

## 自閉症専門図書・VTRの貸出

あかりの家では、自閉症に関する専門図書、ビデオを約400冊保有し、希望する方に貸し出しています。

## あかりの家 さをり班

### ナイスハートバザール

今年も高砂アスパの協力を得て、オリジナリティ溢れる商品を販売いたします。また、さをり織りの実演、体験もしていただけます。是非とも足をお運びください。

日時: 12月13日(土)・14日(日)

場所: 高砂アスパ セントラルコート

販売・出店 是非お立ち寄りください。

販売所: 高砂駅前観光案内所ちり  
ヘアーサロン采(アヤ)

出店: 東はりま県民局チャレンジショップきずな  
(毎月、第4月曜日)



## 地域交流ホームの開放

あかりの家では、地域福祉の活性化のために、地域交流ホームを、障害のある方たちの活動や、ボランティアグループの会議などにご利用いただき、施設と地域との交流の場として開放しています。

## 社会福祉法人 あかりの家の状況 (H24年度)

### 〈社会福祉法人 あかりの家 利用者状況〉(平成26年4月1日)

あかりの家	〈施設入所 定員40名、現員40名(男32名、女8名)〉 〈生活介護 定員40名、現員46名(男36名、女10名)〉	1. 出身別利用状況	高砂市(34) 加古川市(24) 姫路市(15) 播磨町(7) 加東市(1) 神戸市(9) 尼崎市(2) 小野市(2) 県外(2)
ワークホーム	〈定員40名、現員50名(男38名、女12名)〉	2. 年齢	あかりの家 最年長59歳、最年少22歳、平均 施設入所42.7歳 生活介護41.4歳
グループホーム	〈定員7名、現員6名(男5名、女1名)〉		ワークホーム 最年長78歳、最年少18歳、平均 就労B型30.2歳 生活介護41.1歳
			グループホーム 最年長78歳、最年少40歳、平均55.1歳

## 編集後記

地域支援室が「地域支援センター あいあむ」として独立し、一方で、あかりの家では「プラグ班」が、ワークホーム高砂では「納豆班」がスタートしました。今年の「あかりだより」ではこれらを取りあげ、内容の濃い記事を掲載することができました。

私はプラグ班を取材させていただきましたが、新作業に取組むチームの勢いというものを肌で感じる事ができました。それらを紙面でどう表現していくか、いろいろ悩みましたが、少しでも皆様に伝わたらうれしいです。(井)

## 社会福祉法人 あかりの家

障害者支援施設 あかりの家  
 児童デイサービス あかりの家  
 地域支援センター あいあむ  
 知的障害者通所授産施設 ワークホーム高砂  
 グループホーム 希望山荘日笠  
 ひょうご発達障害者支援センター クローバー

〒671-0122 兵庫県高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)254-3292 FAX (079)254-3403  
 URL <http://homepage2.nifty.com/akarinoie/>

〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)254-3292 FAX (079)254-3403  
 E-mail [akarinoie@nifty.com](mailto:akarinoie@nifty.com)

〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)254-3292 FAX (079)254-3403

〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)280-3740 FAX (079)254-3403

E-mail [aiamu@mbr.nifty.com](mailto:aiamu@mbr.nifty.com)

〒676-0081 高砂市伊保町中筋1331 TEL (079)449-0701 FAX (079)449-4111

E-mail [workhome@nifty.com](mailto:workhome@nifty.com)

〒676-0082 高砂市曾根町1704-4 TEL (079)447-3136 FAX (079)447-3136

〒671-0122 高砂市北浜町北脇519 TEL (079)254-3601 FAX (079)254-3403

URL <http://auc-clover.a.la9.jp/> E-mail [auc.clover@nifty.com](mailto:auc.clover@nifty.com)